

フィリピン

南ルソン超高压送電線(1)(2)



本事業により建設された送電線

[借款概要]

承諾額/実行額	42,320百万円 / 32,000百万円
借款契約調印	1982年5月 / 1983年9月
借款契約条件	金利3.0%、返済30年(据置10年)
貸付完了	1989年11月 / 1992年12月

[事業概要]

南部ルソン及び北部レイテ地域に建設される地熱発電所とマニラ首都圏を結ぶ超高压送電線を建設し、同地域の電力需要の増加に対処するもの。

[評価結果]

本事業は、フィリピン政府の電源開発10ヵ年計画(1981~90)に基づき、新たに開発される地熱発電所からの送電のため、超高压送電線2回線(500kV、約322km)及び変電所3ヵ所を建設するものであった。

事業は1994年7月に完成したが、政府の財政難等から予定されていた地熱発電所の建設が大幅に遅れ、発電設備容量も当初計画の1,430MWから790MWへと縮小された。また、一部の区間については破壊・盗難被害にあったこともあり、送電施設が十分に活用されない状況が続いた。

その後、世界銀行の支援等により送電施設の修復が行われ、1998年以降は当初計画の約半分の230kVレベルではあるものの送電が行われており、今後、一部の区間においては500kV送電への昇圧も計画されている。

なお、実施機関の国家電力公社(NPC)では、現在地方政府との協力、法制度・取締まり強化等により、送変電施設の保安体制の改善に努めている。